

広報

とちぎ

2014 **2**
NO.46

発行/栃木市
〒328-8686 栃木県栃木市入舟町 7-26
2月3日以降(〒328-8686 栃木県栃木市万町 9-25)
編集/総合政策部秘書広報課
☎0282-21-2224
2月3日以降(☎0282-21-2316)
<http://www.city.tochigi.lg.jp>

今月の1枚

栃木の代表イチゴとなることを期待される「スカイベリー」。誕生の地・栃木で大切に育てられている。
(都賀町木で12月18日撮影)



2月3日及び10日に各課が新庁舎へ移動します。電話番号も変わります。

話題の新品種いちご

スカイベリー “代表” へ栃木で育む

地元

県農業試験場いちご研究所で開発された「スカイベリー」。名前の由来は、大きさ、美しさ、おいしさの全てが大空に届くようすばらしいいちごであることを意味し、県内にある百名山の一つ皇海山(すかいさん)にもちなんでいます。平成24年9月に商標登録され、試験的に栽培が始まっています。

「スカイベリー」の特徴は、

- ① 25g以上の果実の発生割合が6割を占めるなど、極めて大果
- ② 果形は円すい、果色は明るい赤色で光沢があり、外觀が優れている
- ③ 糖度と酸度のバランスが良く、ジューシーでまるやかな味わい
- ④ 収量は「とちおとめ」より多い
- ⑤ 耐病性が「とちおとめ」より強いことなどです。

これまで中心だった品種「とちおとめ」の単価は、ここ十数年で約1割低下、市場においても産地間競争が激化しています。そこで、「スカイベリー」は「高級いちご」としてブランド確立に取り組んでいます。

市内でも『いちご新品種「スカイベリー」実証栽培研究会』を組織して12軒の農家が栽培に取り組んでいます。同研究会の会長田藤徹雄(たとうてつお)さんは「現地検討会などを開いて話し合い、良いやり方は取り入れて勉強している。地元の研究所で開発された品種なので、我々にとって作りやすいのではないかと。産地間競争を勝つため、待ち望まれていた品種でもある。これから、一番大きくて一番おいしいという太鼓判が付いた、栃木を代表する品種になってほしい」と話しています。

「スカイベリー」は東京のデパートなどで販売され、今後の人気上昇が期待されています。

主な内容

- 特集 栃木市文化大使を委嘱しました・・・2
- 証明書自動交付機停止のお知らせ・・・3
- 栃木市長及び市議会議員選挙について・・・3
- 所得税の確定申告と市県民税の申告は3月17日まで・・・6
- 平成26年度広報とちぎ・市ホームページ広告募集・・・15

栃木市の人口

人口/ 146,630人 (-45)
 男/ 72,267人 (-28)
 女/ 74,363人 (-17)
 世帯数/ 54,790世帯(+21)

※外国人登録を含む
11月末現在()内前月比



栃木市

市章

栃木市の「と」の文字をモチーフとして、緑色の4本のラインは自然、歴史、地域、人を表し、青色はそれぞれの流れが一つとなった大河の流れを、その先にあるオレンジ色の円は輝かしい未来と人々の情熱を表しています。